

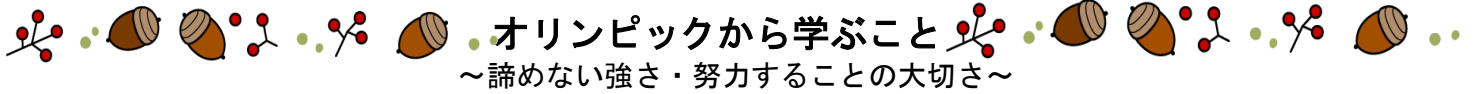


令和6年度 9月号 川口市立辻小学校

令和6年9月2日

# 辻小学校だより

学校教育目標 ○学ぶ子（知） ○やさしい子（徳） ○元気な子（体）



校長 近藤 百合

長いようであつという間だった夏休み。子供たちにとってどんな夏休みだったでしょうか。1年の中でも1か月以上も家庭での生活が中心になる期間は夏休みだけです。しっかり計画を立てながら様々な体験をし、学びも充実することができたでしょうか。元気に学校に戻ってきた子供たちに大いに期待していきたいです。保護者の皆様にも引き続き、御理解・御協力をお願いいたします。

さて、この夏休みの話題といえば、やはりパリオリンピックです。東京オリンピックが1年延期されたこともあり、3年後の開催となりました。無観客だった東京オリンピックと違い、多くの観客が見つめる中で繰り広げられた各競技の盛り上がり方はテレビで観戦している私たちも思わず熱くなってしまいました。どの国の選手もこのオリンピックのために多くの努力をしてきました。選手たちにとってオリンピックは他の世界大会とは全く別物で、ここで成果をあげることが夢と語っている方もいました。結果に満足した選手もいれば、悔しさに人目もはばからず、大泣きをしている選手もいました。そのどれもが心打たれました。

海外で開催されるオリンピックとしては最多のメダル数となった今大会。難しいと言われる金メダル連覇を成し遂げた1人が、スケートボード男子ストリート金メダリストの堀米雄斗選手でした。堀米選手は東京オリンピックで金メダルを獲得した後、思うような成果が得られず、パリオリンピック代表も危ぶまれていました。

ラン2本とベストトリック5本で構成された最後のランキング対象大会の決勝で、ランを暫定2位で終えた堀米選手は、ベストトリック3本目でこの技を決めると、2年間に及んだオリンピック予選で最高得点となる97.10を叩き出し決勝首位に浮上。堀米選手は最後までその位置を維持して、優勝し、代表の座を射止めることができました。

7月26日に始まったパリオリンピック。大会3日目を迎えた7月29日にスケートボード男子ストリートの予選・決勝が行われ、暫定7位に沈んでいた堀米選手は、最後の最後のトリックで97.08点をマークして首位に浮上。オリンピック2連覇を達成しました。

決勝後のインタビューで、「もう本当に信じられないし、夢のような時間ですね」と語っていました。金メダルという結果について、「いやもうこれを想像は全然できなかったですね。オリンピックに行けるかも分からない状況で本当に精神的にもすごく辛かったし、体ももちろんキツかったんですけど、支えてくれた仲間、家族、サポートしてくれたみんな、ファンのおかげで最後まで滑り切ることができたし、信じることができた。本当にわずかなチャンスを……オリンピック予選までは1%くらいしかない可能性だったと思うんですけど、最後まで信じてこれたのが今日の優勝の鍵になったと思います」と続けていました。

堀米選手はわずかなチャンス（1%くらいの可能性）を信じ、頑張りきることができました。それは堀米選手の「可能性があるなら諦めない心の強さと今までの努力の成果」と感じます。

一流の選手からは多くを学ぶことができます。子供たちにも「諦めない強い心」「努力することの大切さ」を学んでほしいと思います。

辻小学校のホームページを是非、ご覧ください。

学校の教育活動等随時、更新しております。「辻小学校」で検索いただくか、右のQRコードからも、閲覧することができます。

子供たちの日常的な学習の様子もご覧ください。

学校ホームページ <http://tujisyounoofficial.jp/>

